

夢へのかけ橋レインボーチャレンジ記録表 (6月)

金	土	日	月	火	水	木
★	2	3	★	★	★	★
★	9	10	★	★	★	★
★	★	17	★	★	★	★
★	23	24	★	★	★	★
★	30					

しら は た
熊本県甲佐町立 **白旗小学校**

未来を切り拓く「レインボーチャレンジ」 ～小さな挑戦を一つひとつ自信に変えていく取り組み～

「未来を切り拓く、挑戦力の育成」を教育目標に掲げる白旗小学校では、家庭での自主学習のひとつの手段として、eライブラリを活用しています。

児童の意欲を高める先生の工夫と、それを支えるICT支援員の思いをご紹介します。

自主的な家庭学習は、一人ひとりができることから

夢へのかけ橋レインボーチャレンジ 燃える!炎の家庭学習チャレンジ!



POINT !

児童一人ひとりの努力を認め、励ます 7段階のスモールステップ評価

白旗小学校では、児童の家庭での自主学習の内容を7段階のステップで前向きに評価する「夢へのかけ橋レインボーチャレンジ」という取り組みを行っています。eライブラリの「家庭学習サービス」は、**個々に学習内容を選べることから、自主学習の手段として多くの児童が日々取り組んでいます。**

POINT ! 星の色の变化でわかる自身の成長と、やる気を促す表彰式

評価は、ステップに応じた7色の星型シールを月ごとの記録表に貼り付け、可視化します。すると児童にも、自身の日々の成長が実感でき、やる気につながっています。

さらに、「月間最優秀賞」など、複数の賞を設けて表彰します。児童はみんなの前で賞状やトロフィーを受け取ることが嬉しく、家庭での自主学習に、より積極的に取り組むようになります。

インタビュー 児童の「がんばってよかった」を引き出す仕組み作り

熊本県の教育大綱でうたわれる「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」に通じる、本校の「夢へのかけ橋レインボーチャレンジ」は、児童が自ら目標を立てて成し遂げる機会を作りたい、そして成功体験を積み重ねて自信につなげてほしいとの思いで、実施しています。

評価は、こつこつ続け、伸ばしていける7段階のスモールステップとし、さらに各ステップで教員が必ず児童を認め、励ます内容にしています。

eライブラリは、教材の種類と数が豊富で、**児童の目標立てに豊かな選択肢を与えてくれるため、できることから、あるいは興味のあることから始めてよい、と児童に伝えています。**



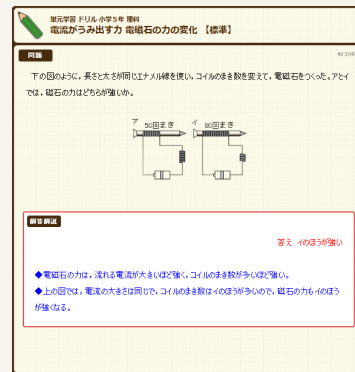
校長
岩下 勇治 先生

子どもは認められたがるものです。表彰式は、言葉で伝えるのみではなく、認められたことを体感させるために行います。全ての児童が「がんばってよかった」と実感し、自信をつけていけるよう、「レインボーチャレンジ」には今後も、工夫を加えていきます。

本校では、教育目標「未来を切り拓く、挑戦力の育成」のため、家庭学習では「レインボーチャレンジ」、校内では「タブレット等を活用した『個に応じた学び方』の習得」に取り組み、eライブラリを活用しています。

タブレットは、常に児童の近くに置くようにしており、授業時間に余裕ができたときなどに、すぐにeライブラリのドリルを使うことができます。

eライブラリのドリルは、**その場で○×を判定できるので、自身の答えが正しいか間違いかすぐに確かめられ、間違えた場合は解答解説を読んで、なぜ間違えたのかに気づけるので、集中力が続きます。**



夢へのかけ橋レインボーチャレンジ ★コレクション賞★

年 月 日
あなたは、この期間、家庭学習を一生懸命頑張りと、7点シーンを40枚コレクションしました
その努力を讃え、コレクション賞を贈ります
平成 年 月 日
甲佐町立白旗小学校
校長 岩下 勇治

また、「レインボーチャレンジ」でeライブラリも評価に加えるようになってからは、例えば雨が降って外で遊べない日の昼休みに、児童が自分から「eライブラリをしたいからタブレットを使ってよいですか」と聞きにくることが増えました。

eライブラリで取り組む教材は児童に任せていますが、上の学年の習っていないドリル問題に挑戦する児童もいます。間違えながらも**繰り返していくうち、知識として身につくことが楽しい**ようです。そして7段階の評価をもらい、表彰されることがまた、一段と嬉しいようです。



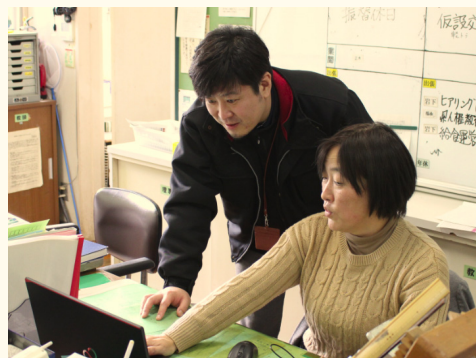
ICT教育主任
高田 聖也 先生

■ NPO法人 アイシーティーサポートスクエア

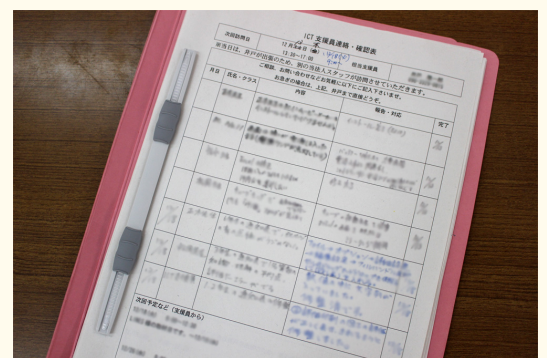
熊本県内の小・中学校で、ICTの活用支援をしている「NPO法人 アイシーティーサポートスクエア」。白旗小学校にICT支援員として入り、活用を支える井戸 隆一郎さんにお話を伺いました。

ICT支援員として、校内のICT環境にあわせた授業活用に向けて先生方へのアドバイスや子どもたちへの支援を行っています。

eライブラリの「家庭学習サービス」を町内の各校におすすめているのも、それらの活動の一つです。



▲ 教頭先生と共にeライブラリの学習履歴をチェックします。



▲ 先生とのやり取りを細かく記録し、提案活動に役立てています。



井戸 隆一郎氏

紙ベースでの学習に比べ、**eライブラリのドリル学習は、指導のスピードアップにつながります。**なぜなら、子どもたちは間違った問題をその場でやり直すことができ、さらにその様子を**先生は「学習履歴」としてリアルタイムで見られ、次の指導に活かせるからです。**

ICT活用によって実現するより良い指導が、子どもたちの学力向上につながることを願っています。